



↑朝日田智昭常務理事（左）から深浦市長に助成決定書が渡されました

きさらぎ開設にB&G 財団の助成が決定

市が開設する『子ども第三の居場所きさらぎ』が、公益財団法人B&G財団（東京都）から9560万円の助成を受けることが決まり、9月17日、市役所で助成決定書授与式が行われました。

B&G財団は、子どもたちが安心して過ごせる環境で、自己肯定感や人や社会と関わる力、生活習慣、学習習慣など、将来の自立に向けて生き抜く力を育む場所の開設運営を行う自治体や団体を支援する事業を行っています。

さらには、生活や学習などに不安や悩みを抱える子どもが安心して過ごせる居場所として整備を進めていて、令和7年2月に運営を開始する予定です。

みんなであ
考えよう
人権・同和問題
No.273

このコーナーは、隔月のシリーズで掲載しています。これを手がかりに、家庭で人権・同和問題について話し合ってみましょう。

●問合先 生涯学習課人権・同和教育係 ☎23・3186

高齢者の気持ちを考える

総人口に占める65歳以上の割合は『高齢化率』と呼ばれる、高齢化の度合いを示す指標として使われます。伊万里市の高齢化率は33・8%（9月1日現在人口）で、平たく言うと市民の3人に1人が高齢者ということになります。

人は年齢を重ねるほどに身体機能や認知機能が低下しますが、社会貢献への意欲や能力が衰えるわけではありません。私たちの身の回りにも、地域のボランティア活動や子育て世代への支援など、重要な役割を担う高齢者の姿があります。このことから分かるように、豊かな経験と知識を持つ高齢者は、かけがえのない社会の構成員なのです。

近年、アクセルとブレーキの踏み間違いによる交通事故や介護のストレスによる虐待など、高齢者を取り巻く

悲しいニュースが増えていきます。これらの問題は、運転免許証返納後の移動手段を確保するための不安や、高齢者夫婦世帯の増加に伴う老介護など、高齢化によって生じるさまざまな社会の課題を浮き彫りにしていると言えます。

高齢者が安心して暮らせる社会を実現するためには、社会全体で取り組むことが重要です。難しく考える必要はありません。大切なことは『高齢者の気持ちを自分に重ねて想像する』ことです。人は誰しも年齢を重ねます。あなたも未来の高齢者であることを忘れてはいけません。高齢者の能力や可能性を決めつけず、私たち一人ひとりが、今ある社会の課題を未来に残さないための努力をすることが、高齢者が安心して暮らせる社会の実現につながっていくのです。

郷土の文化財

●問合先 生涯学習課文化財係 ☎22・1262

開発行為を行う場合は 事前に文化財係へ連絡を！

市内には、550の遺跡が存在していて、これらは『周知の埋蔵文化財包蔵地』と定められています。

埋蔵文化財とは、土中にある文化財のことを指していて、市には、旧石器時代から近世までの埋蔵文化財があります。

埋蔵文化財がある土地の範囲内で、住宅建築などの開発行為を行う場合は、事前に『文化財保護法』に基づく届出を行う必要があります。

届出が提出されたあと、文化財係の職員が実際に現地を見て、遺跡がある可能性が高いと判断した場合は、確認調査（試掘調査）を実施します。調査は、人力または重機で掘り下げながら、土層の状況や遺構・遺物の有無を確認します。『周知の埋蔵文化財包蔵地』の範囲

外であっても、場所によっては遺跡がある可能性があるため、確認調査をお願いする場合があります。

工事中に埋蔵文化財が発見されることを防ぐためにも、事前に文化財係に埋蔵文化財包蔵地であるかを確認して、必要な手続きを行ってください。



↑大木戸遺跡での確認調査（二里町）